

萩ジオパーク推協だより

2017年2月27日 No. 23

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510
TEL : 0838-21-7765
e-mail : hg-geo@city.hagi.lg.jp
HP : <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hg-geo/>

発行：萩ジオパーク構想推進協議会 事務局

ビジターセンター 「萩・明倫学舎」 オープン

事務局長 福島康行

萩藩校明倫館の跡地にあった旧明倫小学校の校舎を、新たな萩の観光起点としてリニューアルした『萩・明倫学舎』が、平成29年3月4日(土)にオープンします。萩ジオパーク構想の拠点施設となる「ジオパークビジターセンター」は本館棟の2階。復元教室2部屋を活用し、「ジオパークとは？」に始まり、萩ジオパーク構想の理念・概要、萩の大地の成り立ち、萩の歴史や文化と大地の関わりなどの情報をわかりやすく発信していきます。

萩ジオパーク構想のエリアには阿武火山群をはじめ貴重な大地の遺産が盛りだくさん。「笠山とその周辺」、「長門峡」、「須佐湾・高山」、「龍が通った道」については特に画像や図版を使い、ジオストーリーをわかりやすく展示します。萩を訪れた方は、まずここで火山に育まれた萩の大地の魅力やめぐみを実感していただき、萩のジオめぐりに出発する。そのような施設になることを願っています。

萩ジオパーク構想推進協議会の事務局も、旧明倫小学校4号棟からビジターセンター内に移転します。ぜひ、お気軽にお立ち寄り下さい。萩を訪れたジオ好きな方々と交流できるかもしれません。



〔展示室中央に設置された立体模型〕



〔マグネットパネルによるジオインフォメーション〕

3・4月の予定

- 調査・研究部会 3月8日(水) 10:00～、萩博物館
- 地域振興部会 3月8日(水) 14:00～、萩博物館
- 第9回日本ジオパークネットワーク全国研修会 3月10日(金) 15:30～12日(日) 13:00、会場：Mine秋吉台ジオパーク
- 全国研修会ポストジオツアー 3月12日(日) 13:30～13日(月) 12:30、場所：萩市笠山
- 萩ジオカフェ 3月16日(木) 14:00～15:30、会場：萩・明倫学舎2階復元教室、18:30～20:00、会場：萩市民館第3会議室
- 萩ジオパーク構想推進協議会定期総会 4月10日(月) 13:30～、萩市役所2階大会議室

ジオ公開授業 「火山の噴火でできた地層」 萩市立福栄小中学校

萩市内の各小・中学校で、ジオパークを題材とした学習が進む中、2月16日(木)、午後、萩市立福栄小中学校において、理科の公開授業がありました。これは地学の専門家の協力を得て、学校との連携で実現したものです。当日の指導者は元中学校の理科教員で、長年、地層の研究をしてこられた山口市在住の松尾征二先生でした。理科学習の中で、火山噴出物である火山灰をもとに、火山灰がどんな物からできているのかを確かめます。実際の地層の中から採取した土を使って、簡単な操作を加え、ルーペや実体顕微鏡で観察しました。福栄小学校の6年生と中学校1年生が、県内の数カ所から採取した火山灰の含まれる土を水で洗い、中から抽出された堆積物の特徴を観察しました。「火山灰はほとんどが火山ガラスからでき、その中に少量の鉱物や石のかけらが混じっていること」が分かりました。

過去に噴火した阿蘇や桜島(始良)の火山灰が、この山口県にも降り注いでいることも分かりました。



〔火山灰から堆積物を抽出〕

第4回ジオパーク講座が開催されました 2/11(土)

至誠館大学の原田憲一学長を講師に、「地質環境(ジオ多様性)と人びとの暮らし」と題して、ジオパーク講座が開催されました。地域の生態系や人間社会を支えているのは、地質や地形などのジオ多様性であるという視点から、気候風土が同じ条件にある壱岐・対馬・済州島における生業の違いを話されました。

壱岐は第四紀の火山噴火による玄武岩台地で、土壌はミネラル分が多いので水田耕作が盛ん。対馬は堆積岩とマグマの貫入した岩脈からなり、土壌が貧弱で食料は移入に頼っていた。済州島は活火山の火山島で、水はけが良く牧畜や麦作が盛ん。各地域のジオ多様性の視点から、農耕など生業の違いを明快に説明できるということです。

萩市内でも、第四紀の沖積地や溶岩台地、日本海が形成された頃の堆積岩層、1億年前の花崗岩層や凝灰岩層など多様な地質環境が見られます。市内各地域に暮らす人びとの「この米やこの水がなぜ美味しいのか」などという日常生活の中での素朴な疑問をジオ多様性と結び付けて物語として紡いでいけば、一層魅力的な地域づくりができるのではないかと感じました。



〔原田学長によるジオパーク講演会〕

「龍が通った道」学習会を開催 弥富地域 2/18(土)

2月18日(土)午前10時から、弥富公民館において「龍が通った道を学ぶ会」が開かれ、地区の内外から35名の参加がありました。この学習会は弥富むらおこし会が主催で行われ、本推進協議会副会長でもある中村会長が挨拶の中で、ジオパーク活動を行う目的を話されました。これまで弥富地域を中心に行われてきた活動を紹介し、地域をどうしたいのか、住民の一人ひとりが地域を元気にするためにどんなことをやっていくのか、大地の遺産である「龍が通った道」を使って考え、実行しよう。まずは「龍が通った道」について学ぼう、という主旨でした。

「龍神太鼓」は「龍が通った道」の成り立ちについて語りと太鼓の形で分かりやすく伝え、この日昼食として用意された「龍神弁当」「弥富龍神そば」は伊良尾火山のめぐみを使った地域の皆さんによるおもてなしです。さらに、新たに竹細工を学び、来られた方への土産物とする取組、これは地域での参加者の輪を広げる試みでもあります。午後からは現地でのガイド内容についての勉強を行いました。今後、各地域でこのような学習会を興し、重ね、相互に学び合う体制をつくっていきましょう。



〔中村会長さんの挨拶〕